

# 学習の自律化に向けた遠隔授業の取組について

～令和4年度の取組及び検証～

遠隔授業配信センター 副校長 宮地 敏朗

## 1 はじめに

本年度は遠隔授業の本格的実施3年目を迎え、14校21講座（同時配信2講座）を配信した。遠隔教育の研究・実践の中で「学習の自律化」という観点から、授業外での学習の保障を支援する体制の検討と生徒の主体的な学びにおいて、学習の自律化や個別化に帰結するような遠隔システムとなっていくことが求められている。遠隔授業配信センターでは、遠隔授業が生徒の学びを更に進める一因となるよう次のことを取組の重点とした。本稿では本年度の遠隔授業に関する取組及び検証について報告する。

- 遠隔授業や補習では知識・技能サポート型から資質・能力型になるように、学習の自律化や主体的な学びへと質的転換を図っていく。
- 生徒一人1台タブレット端末を活用したエドテックのドリルや反転学習を取り入れ、学習の自律化を促す。
- 現行の数値データによる評価に加えて、現場の教員の記述により、生徒の学習の質がどのように変化したのかを評価できる仕組みとする。

## 2 学習に関するアンケートの分析

本年度、2回実施した「遠隔授業アンケート」の、生徒の学習に対する姿勢や変容に関する質問項目と回答結果は次のとおりである。各質問の肯定的評価には、その理由について記述による回答も得た。概ね肯定的な評価が多かったが、否定的な評価にも注目し検証した。

質問内容		生徒		支援教員	
		肯定的	否定的	肯定的	否定的
[質問1] 私（生徒）は、遠隔授業を受けて、学習意欲が高まっていると思う。	12月	88%	12%	100%	0%
	7月	94%	6%	96%	4%
[質問2] 遠隔授業は、それが無い場合と比較すると自分（生徒）にとってプラスだと思う。	12月	94%	6%	93%	7%
	7月	96%	4%	96%	4%
[質問3] 遠隔授業を受けて自分（生徒）の学習の仕方に変化があったと思うか。	12月	(1)～(4)は生徒のみ		75%	25%
	7月			76%	24%
(1) 予習・復習をするようになった。	12月	78%	22%	—	—
	7月	86%	14%	—	—
(2) 自分の学習の仕方を振り返るようになった。	12月	80%	20%	—	—
	7月	75%	25%	—	—
(3) 見通しを立てて計画的に学習をできるようになった。	12月	71%	29%	—	—
	7月	72%	28%	—	—
(4) 自分の学習の仕方や取組姿勢に変化。	変化を記述回答（7・12月）		—	—	
アンケート対象（12月）生徒:51名、支援教員:28名（7月）生徒:52名、支援教員:29名 各質問に対する回答 4 そう思う 3 まあまあ思う 2 あまりそう思わない 1 思わない					

### ○肯定的評価について

[質問3]の支援教員による肯定的評価について、「意欲的に取り組んでいる」「生徒同士で教えあう場面」「見通しを立てて行動できるようになった」「必ず復習をするようになった」「主

体性が高まったように感じる」など、学習に取り組む態度についての記述があった。

また、生徒の学習の仕方や取組姿勢の変化についての回答には、「普段から復習するようになった」「興味のあることを自分で調べるようになった」「事前にワークを解いたり（予習）するようになった」「苦手なところを重点的に取り組むようになった」などの記述があった。

「学習の仕方に変化がなぜ起こったのか」「興味・関心が深まったのはなぜか」など変化の要因を検証していくことで、今後の遠隔授業の取組の改善に繋げていく。

#### ○否定的評価について

[質問3]で否定的評価と回答した支援教員は、[質問1]、[質問2]では肯定的評価と回答している。遠隔授業自体にはプラスの評価であり、「生徒に変化がない」という評価は、受講生徒の多くは、学習に対する意欲や意識が高く基本的な生活習慣が確立されているためと思われる。

また、一つの配信科目を複数で担当している場合は、それぞれ違った回答をしている。その理由として「学年や教科が違っていると変化があっても気付きにくい。選択肢に『分からない』『その他』があるとよい」「支援しきれていないことが多く、遠隔教育の利点が薄れているかも知れないことを申し訳なく思う」と記述があった。生徒の状況を把握するためには、授業者と支援教員で「見とりの観点」をより明確にして共有することが必要である。

### 3 一人1台タブレット端末等のICT活用について

タブレット端末やGoogleアプリケーションを活用して取り組んだ事項と効果について整理した。授業外の活用については、個々により差異があり十分な効果が得られていない部分もあった。

これまででできたこと	ここまでの効果
(1)アプリケーション等を活用した授業展開 ・YouTube等を使ったwarming-upや学習内容の深化 ・Google Meetを利用した個別指導やインビジュアルテスト ・Google Classroomを利用した音読小テスト ・Google Slide、Jamboardを利用した言語活動 ・Formsを利用した小テスト実施 ・Google Documentを利用した発音練習 など	・教師の労力や紙の消費数が減少 ・ICTを活用したことで発見した自身の授業改善の視点となる ・生徒が作成した作品や文章をオンラインで共有し交流するなど学び合う場面を設定できた ・音声入力機能で生徒が自身の発音のチェックが可能 ・生徒の成果物を共有、自己評価への反映
(2)課題や宿題の出題と提出、共有 ・Kahootアプリケーションを使用した英語問題作成 ・Google Classroomを利用した課題の出題・提出 ・Formsを利用した各種アンケート実施 (遠隔授業アンケート、進路調査など)	・Classroom等で課題提供や提出、質問等が授業中以外の時間で行うことができる。 課題や授業のfeedbackが丁寧にできる。(時間に縛られず自分のペースで) ・デジタルとアナログの併用
(3)クラウドとアプリケーションを活用した授業評価 ・Google Classroomを利用した振り返りや単元評価 ・タブレットでのパフォーマンス評価(ビデオ撮影・送信)	・反転授業の実施

### 4 課題及び今後の取組

現在、遠隔授業は受信校側と支援教員の協力により円滑に実施されている。しかし「取組への態度の見とり」や「躓きへの即座な対応」「メンタル面のケア」など課題がある。生徒の学習評価においても、生徒の変容を十分に把握し評価していくためには、今まで以上に受信校側との情報共有や評価・見とりの視点を明確にするなど協働体制の強化が必要であると考えられる。

本年度の取組のなかで、ICT機器や教材による効率的な授業展開、Googleアプリケーション等を活用したアンケート実施や課題提示、振り返り等に効果があったことを確認した。今後は更なる改善に努め「学習の自律化」に向けた取組を進める。